

★今月のテーマ すばるの星数えとオリオン大星雲を観る会

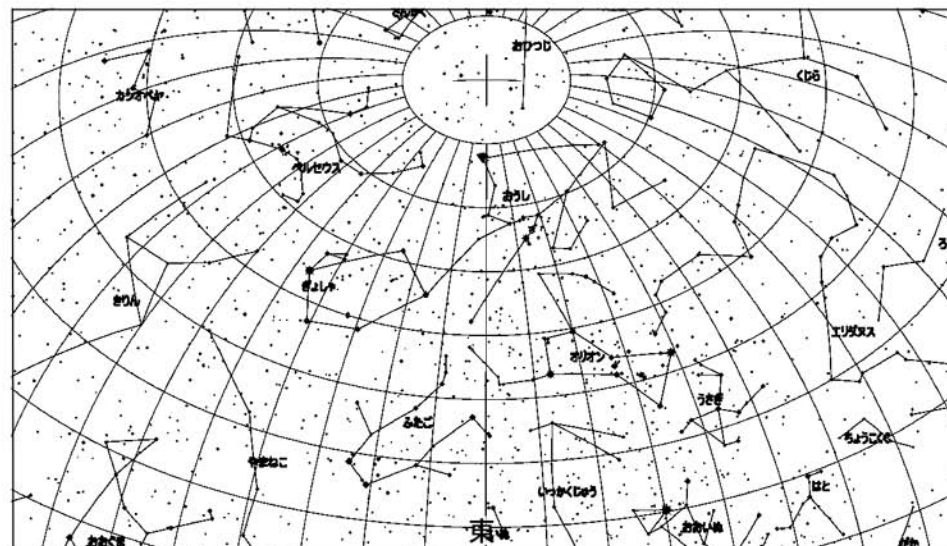
環境省の行う冬のスターウォッチングは長らく無くなっていましたが前年度より復活しました、このような試みは継続観察することに意味があります。姫治天文クラブでは環境省の集計がなくなってからも、ずっと観察してきました。

双眼鏡で“すばる”の星数えを行うのですが、今年はどれくらい暗い星まで見られるのでしょうか皆さんも自分の目で可児市の夜空の明るさを調べてみませんか？

誰もが知っている星座の王様“オリオン座”から冬の星座の探し方をあなたも覚えてみませんか。冬の星座は明るい1等星が多くらびやかですが、星占いに出てくる星座にも1等星があり見つけやすいですよ。

オリオン座の三ツ星の下に縦に並んだ小三ツ星があります。オリオンがベルトに吊り下げている短剣とされていますが、この小三ツ星の真ん中の星をよく見ると、ほかの星のように一点で光り輝いていては、ぼーっとした広がりをもって光っています。小さなものでもかまいません。双眼鏡をもっている方はこの場所をのぞいてみてください。この雲のように広がって光っているところがオリオン大星雲です。この場所は新しい星が生まれているところで、望遠鏡で見ると4つの星の集まりが見られます。トラペジウムと言う名前がついていますが、この星は生まれたばかりの赤ちゃんの星です。この星の輝きがオリオン大星雲を光らせています。向こうを向いた鳥、あるいは花にとまった蝶と呼ばれる姿を自分の目で見てみませんか？

姫天だより



1月15日午後8時の東の空

1月号
2020

-次回の天文クラブ-

●1月の星を見る会

1月25日(土)午後7時30分より
すばるの観察
冬の星座教室

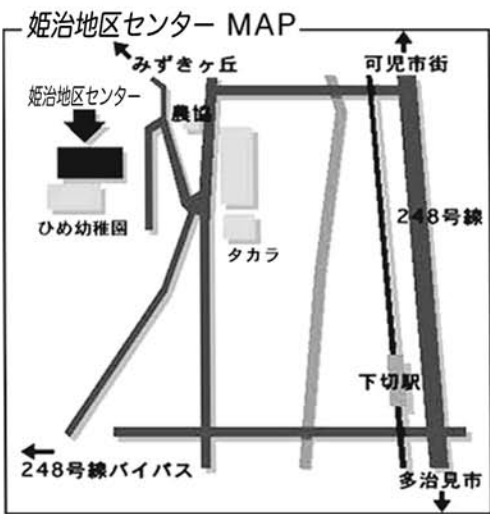
●2月の星を見る会

2月22日(土)午後7時30分より
オリオン大星雲の観察
冬の星座観察

※観察時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分
2020年1月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

★今月の星座 おうし座

1月下旬の午後8時頃に頭の上に来るこの星座は、谷村新司さんの歌にある“すばる”とその南東でいくつかの星がV字形に並んでいます。このあたりが、ゼウスが変身した牡牛をかたどった“おうし座”です。有名なすばる（プレアデス星団）はおうしの肩先に、V字形のヒヤデス星団はおうしの顔にあたります。おうし座は黄道12宮の2番目の星座で、黄道（太陽の通り道）はちょうどこの2つの星団の間を通過しています。

α星（星座の中で一番明るい星）は1等星のアルデバラン（後に続くもの）の意義がありすばるの後に続いて上ってくることからついた名前と考えられます。アルデバランはV字形の先に輝いて見えますが、ヒヤデス星団の集まりの星とはまったく関係がありません。β星は2等星でエルナト（角で突くもの）の意味でその名のとおりに牡牛の左の角の所に輝いています。

星座の神話では、フェニキアの王女エウローペを見そめたゼウスが、王女に近づくために化けたのがこの牡牛で、雪のように真っ白な牡牛の姿に、気を許した王女は牡牛の背中に乗ってみました。すると牡牛は王女を乗せたまま地中海を渡ってクレタ島までやってきました。王女はここでゼウスの子を生みますが、この地をヨーロッパ大陸と呼ぶのは、王女の名前からきています。